

高校間格差を踏まえ分析

●中央教育研究所の高校教員意識調査(下)



▽生徒の質問や相談には親身に答えている

97・2 94・2 95・6 95・8 96・0

▽授業のやり方を工夫している

88・3 81・7 82・4 84・0 89・8

▽生徒指導に力を入れている

78・0 74・0 68・6 64・9 66・7

▽担当する教科の専門書によく目を通している

63・0 63・5 59・1 60・6 77・6

▽熱心に授業を受ける

41・7 43・3 64・0 76・8 87・9

▽授業では指導案や講義ノートを作っている

36・6 44・2 68・1 84・0 86・7

▽受験勉強に打ち込んでいる

4・2 9・6 47・2 78・9 90・8

▽おおむね「非進学校」「中堅校」「進学校」の実

9・2 43・3 64・0 76・8 87・9

態が表れた数値と思われる。が、例えば「自分の

進路」で非進学校の生徒は進学校の場合と比べて

ほぼ半分。生徒が自分の将来に関してニヒリズム

に陥っている状態がこのように表れていると考え

ると、ちょっとひやりとする。

【高校間格差・生徒の特質】4年制大学進学率を基準にI(30%以下)、II(31~50%)、III(51~79%)、IV(80%以上で難関大10%以下)、V(80%以上で難関大学11%以上)の5タイプに分け、集計している。教員の回答数はIから39%、14%、22%、13%、13%で、非進学校、中堅校以下の割合が多い。

自校の生徒の様子・特質を項目ごとに聞いた結果から、進路、勉学、受験に関する3項目を見てみよう。数字は%で上からI、II、III、IV、Vの順(以下同)。

▽自分の進路を真面目に考えている

【高校間格差・生徒の特質】4年制大学進学率を基準にI(30%以下)、II(31~50%)、III(51~79%)、IV(80%以上で難関大10%以下)、V(80%以上で難関大学11%以上)の5タイプに分け、集計している。教員の回答数はIから39%、14%、22%、13%、13%で、非進学校、中堅校以下の割合が多い。

調査報告書は、深谷昌志東京成徳大学名誉教授

らが1983年に同様の項目内容について調査し

たデータと比較して、「高校間の格差が拡大して

いる」「全体に、生徒の勉強や大学受験への意気

込みが減少している」と指摘する。最近、専門高

校が活性化していると伝えられるようになつたが、

一方で普通科の非進学校が取り残される状態にあ

る可能性もあるのではないか。

▽教科等横断的な視点に立つ学習活動

▽チーム・ティーチング

▽コミュニケーション重視の英語教育

▽自己啓発活動

▽個別指導

▽実験・実習

▽課外活動

▽地域貢献活動

▽国際化活動

▽多文化理解活動

▽就職支援活動

▽就労支援活動

▽就労活動

▽就労支援活動

▽

▽	「理数探究」	「日本史探究」	「世界史探究」	等
45	• 6	58	• 7	52 • 8
V		52	• 6	67 • 7
Vタイプ	(超進学校)	の教師が	3項目で最高値	
を示し、	新しい改革の動向に敏感であることが分			
かる。これに対しI～IIIの教師はそれほどでもな				
い。この事は、指導要領の改善が有効に働くのは				
進学校にとどまる結果を招きかねないのでない				
かという疑問を呼ぶ。				

△異なる文化的背景（外国籍等）を持つた人への理解、共生教育

だと思う」(Ⅲタイプ准進学校、男、55(59歳)調査報告書の巻末にこれから日本の高校教育の在り方について自由記述で答えた文章が掲載されていた。対照的な二つの意見を見てみよう。

△性に関する多様性 (LGBT)への理解	60・4	61・5	63・1	57・9	76・8
【教師の声】調査報告書はかなりのページを削除	42・5	52・9	51・9	35・8	50・5
【教員の声】	52・9	51・9	35・8	50・5	76・8
【生徒の声】	52・9	51・9	35・8	50・5	76・8
【保護者の声】	52・9	51・9	35・8	50・5	76・8

「行きの高橋さん、自由記述欄に見られた教師の意見を掲載していた。主なものを以下に掲げる。

【大学入試改革】一方、高大接続改革に関して聞くと、非進学校の教師が重要なとする項目もある。以下、「とても」「やや」の計。

▽ 「高校生のための学びの基礎診断」を導入 79・9 83・7 68・1 70・2 78・8

▽英語入試の成績に民間資格・検定の成績		72
58	66	1
• 7	66	3
62	62	9
• 5	55	9
52	65	7
• 2	65	7
60	69	7
• 6	7	7
69	7	7
• 7	7	7

さまざまな変化への対応が必要

【多様な生徒への対応】 外国籍の生徒が増えるなど従来にない変化が進行中だ。

▽シングルファミリーの人への配慮
▽さまざまな障がいを持つた人への配慮

「学校教育」というものはある程度強制的にならざるを得ない。生徒は文化、文明の繼承者であるので、好むと好まざるとに限らず、学校に入学したら（勉強を）やつてもらうしかない。基礎基本は大事。高校生は高校生としての学問をやるべき

明け暮れ授業中は寝ている。他方で、発達障害の生徒もこれまた多い（Iタイプ非進学校、女子4代）

「社会に出て、その場の環境に順応していく能力をつけることが大切。基礎学力を基に、さまざま道具が使えればある程度のことは解決できる。それよりも、直接やり取りをして人とのつながりや、相手の気持ちを考えること、苦手な人ともうまく付き合っていく手段を学ぶ場。行事、掃除、

「生徒の家庭環境の変化、社会構造の変化、価値観の多様化等々。様々な生徒への対応を余儀なくされている現状で、教員の多様化が大きな問題だ。一生懸命な教員ほど苦労している現状がある」とあると感じた（進学率80%以上校、男、29歳 理科）

教員数の増加を切に願っている。このままでは日本の高校教育はダメになると 思います」(Ⅲ タイプ 準進学校、男、50~54歳、理科)
(矢内 忠=教育ジャーナリスト)

老眼のウソ